

令和7年度 学校評価書

令和8年3月31日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

I. 経営の重点に関すること

	目 標	自己評価	最終評価(A～C)
		具体的取り組み	
重点目標 (産業人としての知識・技能修得、豊かな人生観を熟慮させる)	○ 中学は多くの外国人と交流し実践的な英語や英検の資格取得を目指す。また、城南静岡高校に進学し、より高度な資格取得や数学、国語などの科目の実力向上に努める。大学へ進学し専門知識を身に着けることにより、卒業後の将来の目標も創り上げていく。 ○ 高校ICT科については多くの資格取得を目指すだけではなく、地域貢献や探究活動にも力を注いでいく。家庭学習においても、毎日こつこつ勉強が出来るように指導する。 ○ 高校普通科、共通テストの内容が、センター試験と比べ、文章を読み込んで解答する問題が多くなってきています。どの問題も落ち着いて読んでいけば高得点につながる問題になっているため、何度も繰り返し練習し、確実に点数のとれる指導が必要である。家庭学習は常に目標とする進路先の出題形式や内容を意識させる。 ○ 部活動は夏の暑い中、熱中症の心配があり、給水や休憩をしっかりとって練習が出来るように考えておく必要がある。コロナ禍よりも少しずつ体力がついてきているようだが、その分熱中症対策をしていきたい。 ○ コロナ後、制限の多かった生活から、だいぶ復活しているが集団生活であるため、うがい手洗い等を雑にならないように注意する。楽しく学べる学校を目指す。合唱や集団行動の他、授業時間も増やしていきたい。 教員の情報処理能力を向上させる。	○ 中学は多読やプレゼンの授業を生かし、海外への修学旅行や海外からの学校見学への対応、交流行事への参加等、実践的な英語の活用を目指す。これまで行っていなかった京都への旅行を加え日本の魅力を発信できるようにする。 ○ 高校ICT科の検定資格取得について生徒個人の進路目標や試験内容にあった設定で指導を行う。本校生徒は学校名や偏差値よりも、最終進路目標を優先している。 ○ 普通科高校3年生は幅広く実践的な問題で基礎問題が安定して出来るようにする事。論理的知識を身に着け一般生活の中で使えるようにしていく。常に進路を意識させ生徒の個別の目標に合わせ内容を確認していく。共通テストに向け文章を読み込み理解できるようにする。受験勉強は授業の予習復習から始まるため、家庭学習に目的意識を持たせる。 ○ 部活動は短時間で効率的な練習が必要となってくる。その他、運動部文化部にかかわらず、毎日生徒一人ひとりに声をかけ、心が折れないように前を向いて行動できるように心がける。 ○ コロナ禍で規制の多い3年間を過ごしてきた生徒です。自分たちが経験したことのない時代を過ごしてきました。そのため出来ないこともあることを理解し、元気なところや明るい所が表現できるように見守ることも大切です。外で大きい声が出し、大きい声で歌や発表が出来る機会を作っていく。	B 今年度も普通科が全員共通テストを受けることができました。ただし、共通テストを使い受験する生徒と共通テストを使わない生徒で取り組み方により差が出ました。全国的に本校ICT科のように推薦試験や年内入試で受験する生徒が増えてきています。いずれにしても全科目で暗記だけにとらわれず、文章の読み込みや幅広い知識と論理的な考え方が必要になっています。 学校、教員、生徒に問われることは、社会で通用する学習が出来ているかどうか。選択問題ではなく文章を読み込んで理解し、書き出す力があるかどうか。しかも進んでそれが出来る事が重要です。 ICT科では多くの生徒が今まで以上に検定資格を取得し、将来の夢を叶えてくれる所に進路を決めています。1年次から目標を見失わずよく努力してきた結果だと思います。 中学生は今年も多くの海外からのお客様との交流がありました。忙しく大変な1年でしたが、充実した1年だったと思います。今後も英語以外の授業日数もしっかり確保し他教科の交流も出来ればと考えています。 本校でも少しずつ自学自習が出来る生徒が増えます。今まで教員が付きっきりで合格率を挙げてきたものを、教員が生徒に対し自学自習の大切さと生徒が前向きに努力するように話をしてくれています。生徒も時間の大切さや効率を重視して頑張ってくれていますが、まだ教員がその時々状況に応じた講習や補講等を行い対応しなければならない生徒も多く先生方が工夫努力してくれています。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
A	重点目標に対して、様々な取り組みが実施されており、特に資格取得の促進に関しては、実践的かつ効果的な活動が行われていると思います。目的意識の理解を深める為の教員側の工夫や努力の成果であると感じます。学校の特色や強みを出し、これからも邁進してもらいたいです。

令和7年度 学校評価書

令和8年3月31日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

II、各部・領域等に関すること

自己評価			
	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
教務部	○資格取得・検定勉強対策 ○基礎学力の向上 ○道德教育の充実 ○地域貢献教育への取り組み	ICT科では、商業科目の検定対策として特別講習と強化週間を年間2回ずつ設け、取得率の向上に取り組んだ。普通科では、基礎学力の定着に励み、学力の向上を図った。また、探究活動にも取り組み、市内を中心にフィールドワークを実施し、伝統産業を学び、問題点や解決策などを探究した。 地域貢献教育の一環として「静岡ホビーショー」と「しんきんフェア」に高校3年生ICT科が参加し、企業のサポートをした。また、デジタルアレンジコースでは、プロジェクションマッピングに挑戦し、地域住民の方に楽しんでもらえるイベントの企画・運営を行った。	A 取得資格では、日商簿記1級に5名合格することができた。他にも、ITパスポート試験に2名合格するなど、全国でもトップクラスの実績を残した。また、本年度の卒業生では、全商3種目以上1級合格45名を輩出し、数多くの資格を取得し卒業させることができた。 「静岡ホビーショー」と「しんきんフェア」では、受付をはじめ物販のサポートや会場周辺の警備、小学生の案内誘導補助など様々な仕事を体験することができ、企業とのつながりを深めることができた。 また、デジタルアレンジコースで学んでいる動画編集では、校舎に映像を描写し、近隣の住民や学校説明会に訪れた中学生と保護者に高評を得ることができた。
	○基本的な生活習慣の徹底 ○校内外での安全管理 ○愛される学校作り	日常的な生活指導に加え、登下校時における交通指導やマナー指導、校外巡視の定期実施など校内外における風紀指導、定期的な服装・頭髪検査や遅刻者の調査・改善指導等を実施した。また新生徒指導提要に沿った校則の見直しや本校における教育課題への対応を検討した。	B 今年度は全体を通してまだまだ満足のいく成果とはいえないが、多様化している指導課題に対して苦慮しながらも教職員一丸となって取り組んでいる。また、時代の潮流に合わせた積極的な校則の見直しを実施しており、少しずつではあるが見直しの効果を実感できるようになってきた。 新しい提要の生徒指導を考えていく上で、これからは生徒に「させる指導」ではなく「支える指導」への転換が求められている。共感と支援という先手型の生徒指導は目に見える成果が感覚的である為、なかなか評価がされにくいものであることも事実である。生徒指導の転換期にある教育現場において、私学としての城南静岡の在り方や愛される学校づくりを念頭に掲げ、より一層生徒指導に邁進していきたい

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
A	日商簿記1級5名、ITパスポート試験に2名、全商3種目以上1級合格45名という実績は非常に優れており、高く評価できます。また、地域貢献教育の取り組みは今後の大切な経験の一つとなるので継続して頂きたいです。
B	言葉一つとってもハラスメントと呼ばれる時代となりました。その中での生徒指導は大変だと思いますが、生徒一人ひとりに愛情を持って接することがたいせつだと思います。

令和7年度 学校評価書

令和8年3月31日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るいい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

自己評価			最終評価(A～C)
	目 標	具体的取り組み	
進路指導部	高校3年生	各自が希望する進路先への合格を後押しする。	B 多くの生徒が自らの適性を熟考し、目標に向かって進路実現のために活動し、決定することができた。進学希望者は年内入試を利用して上位私大へチャレンジし合格という結果を出すことができた。今年度も関東圏・関西圏に満遍なく進学をするなど幅広い進路支援ができた。専門学校希望者は国家資格を必要とする医療系、情報系の分野への進学者多くいた。自動車整備系の希望者も企業からの奨学金制度を活用しての入試で合格する生徒が多かった。昨今は年内入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)の倍率が併願可能な学校が多くなってきていることから高い。そうした中でも資格やプレゼンテーション、面接指導など個々への対応をこれからもより一層手厚くして支援していきたい。今年度は比較的総合型選抜では一発合格をする生徒が多く、世間とは逆行していた。これは、担任の先生方がきめ細やかに生徒を指導してくれたおかげであると考え。就職では39名の就職希望者が早々に内定をいただくことができた。早くからの見学会への参加や当日までの事前指導のおかげである。ハンディやPCでの履歴書入力ができるため作業効率が格段に上がりそういった面でも成果が見られた。
	高校2年生	進路意識の向上と具体的な進路先の研究の支援をする。	
	高校1年生	進路知識や情報などの収集。学問探求や職業観の育成。	
		1年生は、上級学校の知識や情報などを収集するために、進路ガイダンスや進路相談会模擬授業等へ参加して理解を深めると同時に、静岡を研究して静岡の産業や企業の知識を深く理解した。 2年生は、インターンシップを実施して実際に働くことの大変さや大切さを体験したり、実際に上級学校へ出向いて授業・施設の見学や交流をしたりして進路が身近に感じるように働きかけた。 3年生は自分の希望する進路先の研究のためにインターネットで試験日を調べたり入試型がどのようなものがあるかを調べたりした。 全体を通しては、継続的に「文章を書く」ことの習慣づけのために小論文講習を外部業者をお願いして実施した。また、長期休暇や週末を利用してオープンキャンパスの参加、会社見学にも参加して比較研究を行った。進学予定者は総合型選抜での受験が多いため、プレゼンテーションの練習をしたり、面接講習を行って面接練習を個別にしたりして各自のスキルアップも行った。早くから準備を開始して長期的また個別的に支援をしていった。	

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
A	学校を訪れた際にロビーに掲示してある進路先を拝見し、数多くの進学者、就職者を輩出している事がわかります。きめ細かな指導の賜だと思えますので、さらなる飛躍のためにも指導の具体的な内容や工夫を示すことで説得力と再現性が高まることと思います。

令和7年度 学校評価書

令和8年3月31日

学校法人長嶋学園
城南静岡高等学校・中学校
校長 村上紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

自己評価			
	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
保健厚生部	○心身の健康保持増進 ○感染症対策 ○職員が働きやすい環境づくり ○教育支援コーディネーターとしての活動を増やす	○生徒及び教員に対し、各感染症への予防・対策を呼び掛けた ○生活習慣病への正しい理解を深めるためのがん講座実施 ○薬学講座では、薬物への正しい知識を生徒に身につけさせた ○教育支援コーディネーターというポジションを 立ち上げ、その土台作りをした。	C ・インフルエンザの大流行により、学級、学年、学校閉鎖まで実施する事態となった。 ・教育支援コーディネーターというポジションが新たに立ち上がったが、特に機能することはなかった。 ・職員の為に、年度末などで管理職との面談をしたほうがいい。
	○生徒の興味・関心を援助し、社会性・創造性を育てる ○より高いレベルの大会等で結果を残す	基本的生活習慣の育成を柱とし、厳しさの中にも慈愛に満ちた指導を心掛ける。 運動部においては、スポーツをする楽しさや喜びを忘れずに指導にあたる。 文化部においては、芸術系や学問系の技能向上を自発的・自主的に活動できるような指導にあたる。	A 全国大会出場を果たした部活動(体操・水泳・柔道・陸上・簿記・情報処理・クライミング)が多数あり、活発な活動をすることができた。 水泳部では、ジュニアオリンピック3位(100mバタフライ)、8位(200m自由形)を始め、全国中学校水泳競技大会 準優勝(100mバタフライ)、国民スポーツ大会4位(4×100mメドレーリレー)など活躍が目立った。また、柔道部では、創部以降初めて全国大会に出場することができた。書道部では、令和7年度静岡県高等学校文化祭書道部門の個人の部で静岡県高等学校文化連盟会長賞を受賞した。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
C	学校、教員、生徒全体が感染症対策の意識を高く持つことで一定程度、感染を防ぐことが出来ると思いますので、定期的に情報共有し、健やかな学校生活を送って頂きたいです。生徒は勿論のことですが、生徒の支えとなる教職員が元気で無ければ学校は機能しません。ぜひ教職員のメンタル面や環境づくりを注視してください。
A	部活動では主体性や協働性、思いやりの心など学べることが多いです。今後も慈愛に満ちた指導をお願いします。

令和7年度 学校評価書

令和8年3月31日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

自己評価			
	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
教職員の資質向上	○生徒への指導に際して考えるべきこと	教職員は、豊かな知識や識見、幅広い視野を持ち個性豊かでたくましい人材や特定の教科や指導法についてより高い専門性を持った人材である必要があるため、日々アップデートが必要な職業である。本年度は、常葉大学入学センター進学アドバイザー寺島明彦様より今後城南静岡の教員として、キャリアデザインを意識した指導についての講演を受講した。今後10年間で多くの仕事が自動化される、先行き不透明な時代を生きていく生徒に対してどのような教師を目指すべきなのかなど、現状や今後の教員生活を見つめなおす良い機会になったと思われる。また、昨年度に続いて静岡ディーエム証券の浦島様を講師に招き、投資や運用について、そのメリットやデメリット、今後の展望などを講義いただき、人生設計で欠かすことのできないお金についての知識を身につけることができた。	A 8月と12月の2回実施した職員研修はいずれも、今後教職員として職務を遂行していくうえで有意義なものであった。教員としての生活と生徒へのフィードバックの両立に資する、意義深い研修であった。
	保護者との連携	P T A役員と連携して保護者との連絡を密にして行きたい。	A 今年はいくつかのイベントが行われ、保護者を含めた来場者が多くあった。
	地域との連携	○学校行事等の地域の方の参加を促す ○地域のイベント・地域企業のイベント等の参加 ○学校施設の貸し出し	A 様々な催し物を実施し外部の催し物にも参加して新聞等にも紹介された。地域の方々だけでなく外部からの電話等賞賛を受けた。
	施設・設備	○新入生に情報機器の貸し出し ○本館修繕工事 ○備品の入れ替え	A 本年度も新入生に情報機器を貸し出すことができた。本館については19年が経過し様々な所で修理が必要となってきた。中でも最も重要な外壁修繕工事を行う事ができた。今後とも管理をお願いしている建築事務所とも相談して適切な処置をしていきたい。

学校関係者評価	
評価	学校関係者評価委員から
B	報道等で学校の不祥事が多く見られた年だったと思います。他校の話と考えると、教員の指導については特に注意を払って実施していただきたいです。未来ある生徒を心豊かに育てて欲しいです。
A	保護者との連携は欠かすことができません。今後も継続したコミュニケーションをお願いします。
A	引き続き地域との連携をお願いしたいです。また、災害時の対応等も地域と密にお願いします。
A	生徒・教職員の安全第一を考えた環境づくりをお願いしたいです。トイレや階段の掃除にも力を入れて頂き、より良い環境づくりに期待します。

令和7年度 学校評価書

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

令和8年3月31日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

学校からの経営のまとめ(成果と課題)	
A	この年度の生徒は、部活動でも勉強面でも少しずつこつこつ頑張った生徒が多く、少し心配でしたが3年生になる頃には積極的に勉強が出来るようになりました。
	また、高校3年生のほとんどの生徒がインフルエンザ休校の前に進路が決まっていたため、進路には影響がなかったように思います。高校1、2年生が検定試験前に学級閉鎖や学年閉鎖があり心配しています。
A	コロナ禍での自宅待機のように、インフルエンザでも登下校の時間や隙間時間を有効に使い勉強時間を減らさず勉強できたと思います。
	課題としてはコロナ禍で多くの学校が登校前にリーバー(出席と体温連絡アプリ)で発熱確認を行っていたにも関わらず、今回は登校してみないと正確な出席が分からない状態でした。登校後に欠席者が多いことが分かり学級閉鎖ということがありました。少しコロナの頃の危機感が薄れているように感じます。
A	校内を周り授業を見ていると、昨年より少しずつ落ち着いています。表現力は以前よりも進歩し、以前より礼儀正しいように感じます。
	卒業後の社会ではプレゼン能力が問われるようになっていきます。本校はそのための知識、技術も授業で養ってきました。そして、社会ではリモートでの仕事も必要だと知りました。ITとCTの両方が必要な時代になっています。本校では今後、自ら進んで考え行動する能力と相手の事を考えて話をする事の出来る能力を培っていききたいと思います。服装を整え礼儀を理解した生徒とともに未来を考えていききたいと思います。

まとめ	
A	少子化がさらに進んでおり、学校の特色や強みを全面的に打ち出すことが今後の経営においてさらに重要になってくると感じます。様々な課題に対し、具体的な方針を示し、教職員一丸となり益々発展することを期待します。